

国分寺市図書館運営協議会平成19年度第4回定例会要点記録

日 時：平成19年5月31日（木）午前10時から12時

場 所：本多公民館 会議室2

会長：本日は委員1名が欠席。「図書館雑誌」の記者が傍聴に参加し、会議風景の写真を撮りたいとの希望があるがいかがか。（全員了解）4月に人事異動があり、真田館長が着任されたのでご挨拶をいただきたい。

館長：4月に本多図書館館長に就任した真田です。前所属は職員課、その前が教育委員会庶務課、庶務課の前は図書館に長くいて4年ぶりに図書館に戻った。この4年間で本多の夜間開館、運営協議会の立ち上げ、駅前分館と図書館の様相も周りの環境も大分変わったと感じる。そういう中で、図書館がどういう方向に進んでいくべきか、運営協議会の中で議論していただき、市民へのサービスを確保していければと思っている。館長として協議会に相談しかつご指導をいただきながら、図書館運営が少しでも市民の役に立つよう努力をしていきたいと考えている。

会長：副会長より「教育フォーラム」の記録を配りたいそうだがよろしいか。（異議なし）

事務局：配布資料の説明。

会長：第3回運営協議会要点記録は修正・訂正を要するようであれば、事務局に伝えてください。本日は、前回に引き続き国分寺市立図書館の現状と課題に関する議論を行う。二つ目は、昨年度と今年度の図書館事業に関わる報告がある。三つ目は、子ども読書活動推進計画（以下推進計画という）の報告を事務局からしていただく。はじめに、国分寺市立図書館の現状と課題について、前回に引き続き図書館サービスの現状について報告していただき、私たちの認識を深めていきたい。利用者サービスに関して、対象者別サービスを中心に、児童・障害者・多文化サービスについて議論をしていきたい。

事務局：「国分寺市立図書館の現状と課題 No. 2」について資料に沿って説明。

会長：対象者別サービスと利用条件の面で、事務局から課題の整理も含め報告された。一つ目に児童サービス、二つ目に障害者や多文化サービスなど図書館利用上の障害を持っている人たちの問題、それから利用条件と、大きく3つに区分する。まず、児童サービスについて日頃感じていることを含め意見・質問をいただきたい。

委員：お話しグループによる学校等でのお話しの出前の際に、本を置いておくバックアップをしていただき大変助かっている。児童文学講座が年3回もとまち図書館で実施されているが、「語り」の講座ができれば子どもたちにお話しを聞かせることができると思っていたら講座が開かれた。すごく良い講座で実り多かったが、1回では不十分である。毎年講座を組むことで語り手が増えていくと思う。続けてほしい。

会長：国分寺市では、図書館以外で朗読やお話しなど公民館等で講座をしていないのか。

委員：有名な絵本作家などの講演会はある。10年前は、おはなしグループが学校に入ることができなかったが、今は学校の方からお母さんたちに「読みきかせは学校でどうぞ」と手を広げてくれている。お母さんたちは、どんな本を読んだらいいか右往左往しているところがある。どういうふうの本を持ち、どんな本を読んだらいいのかというような講座も必要である。一步踏み込んで、語り手を育てるということも長い目でみていただきたい。講座に20人が参加しても残るのは2～3人なので、定期的開催し、図書館が育てるという立場に立っていただきたい。

副会長：もとまち図書館と協働という形で、学校の授業時間に図書館がブックトークと本の紹介をし、文庫が読みきかせや絵本を読んでいる。並木図書館でも、地域の子どもたちに読みきかせをしているグループの方が望んでいたところ、それが実現し市民の方がとても喜んでいて。図書館と市民グループがタイアップすることにより、市民は学校に入ることが気持ちの上で楽になり、先生方も図書館が入ることにより安心して受けてくれる。図書館も行事としてぜひ進めていただきたい。かつて公民館でもお話しの講座を開催しており、昨年度は本多公民館で子どもたちへの読書に関する講座を開催した。図書館と公民館がタイアップして開催してくれると一番いい。

会長：「推進計画」と絡めながら子どもたちの読書条件とか環境をどう整えていくか、その担い手をどう育てていくかが大きな課題になっていくと思うが。

副会長：6小に図書館職員が市民グループと一緒に出向いてのブックトークがとても良かったとのことだが、感想を一言聞きたい。

事務局：昨年の7月から並木図書館で関わっている。長く活動しているお話しグループがあり、以前より6小から要請を受けお話しや読みきかせをしているが、回数が多くなりグループだけで応えることが難しくなってきたこと、折角地域に図書館があるので、図書館も学校に出向いてほしいとお話だった。図書館では、できる限り学校へ出向くことが大切であると考えており、できることは何かと考えブックトークとなった。お話しグループのお話しに感動し緊張もほぐれたなかブックトークができたこと、3クラスの子どもたちそれぞれ反応が違う楽しみもあり良かった。読んだ本を図書館に飾ったら、早速子どもたちが借りに来た。図書館だけでは限界があるので、おはなしグループと協力することは、長い目でみていいことだと思う。

会長：国分寺は地域ごとに図書館があるので、地域の小学校教員を担当しながら近い距離で協力し合えるといういい面がある。

委員：「推進計画」はこの協議会で検討する問題かどうか分からないが、市にいろいろお願いをすると、「推進計画」が決まり盛り込まれたら予算がつきますという答えが返ってくる。市民に対して一緒に考えましょうという呼びかけがまだない中、不安な気持ちである。小学校の調べ学習は大事なことだと思うが、司書一人で2、3校を掛

け持ちしている。学校図書室に教科書が置いてないので、調べ学習でなにがあるのか調べようがない。国分寺市で使っている教科書を調べ、資料を揃えなければならない。学校図書室に教科書を置き司書が仕事のできるような環境を整えてほしい。

会長：「推進計画」の進め方に関わる話題になると思うが、教科書を公共図書館ではどう扱っているのか。

事務局：国分寺市の採択分の教科書は恋ヶ窪図書館で地域資料として開架に出している。指導室から届く教科書のうち一セットを恋ヶ窪図書館で登録して利用できるようにしてある。もう一セットは本多図書館の閉架書架に保存用として置いている。

会長：国分寺市の小・中学校では、学校司書はどういう配置か。

事務局：小・中学校全15校で7名の嘱託司書がおり、小学校で週2日、中学校では週1日勤務している。勤務時間は5時間。

委員：嘱託司書1人で小学校を1校と中学校2校を受け持っている人もいて、随分混乱しているようだ。司書の研修もないし、顔合わせもない。昨年2回、学校と市立図書館連絡協議会があったが、その会に司書が出た学校と図書室の担当教諭が出て司書は出ていない学校があり、7名の司書が相談できるような場ではないようだ。

会長：学校と図書館の連携・協力関係については、この協議会で取り上げなければいけないと思う。児童サービスについては、本の選書に労力をかけ、リストを作成するなど随分丁寧に行っているようだが。

事務局：市内の図書館5館に各館児童担当が2人いる。選書の際、多いときは5～60冊の本を事前に全部読めるかということと実際は大変である。その本の評価（レビュー）を書いている。絵本・幼年童話・長編と分け、そのつど読むものを決め、各館に振り分け担当者がローテーションできちんと読んで評価をしている。職員が本を選定する力を付けるとともに、リクエストを受けた時などはその本の評価は参考になる。

会長：東村山市では、ブックリストを文庫など子どもの本に関心のある市民団体と協力してつくるという伝統を作った。そのあたりはどうか。

事務局：国分寺市ではリストづくりは職員が進めており、お話しグループの方たちとはまだしていない。協働という点からいえば、今後その一つと考えられる。

委員：「見計らい選書」がよく分からない。書店が売り込みに持ってくる本ということか。

事務局：契約している本屋が取次店から本を持ってくる。図書館が、こういった分野の本を持ってきてほしいという希望をだし、それを元に選書する。

委員：新刊本が出たら全部自動的に届くのか。取次店が売りたいと思う本がくるのか。

事務局：ある企画をもって売り込もうという本ではなく、基本的にはその前1週間間に出版された本を「新刊見計らい」というかたちでチェックすることである。最初から図書館向きではない本はコード設定で切り、残りの本は基本的には全部持ってきてもらっている。企画本には縛られないようにしている。最初から購入しないであ

ろう本を絞っておかないと、返品率が高くなってしまう。

委員：今、出版情報は簡単かつ詳細に手に入る。それをベースにこの本を持ってきてほしいという方法ではないのか。

事務局：出版後にこの本をと個別指定すると、購入を前提とした議論になってしまう。また、出版後だと選書のスピードが遅くなる。出版される前に、コード上で図書館向きでない本を除き、1点ずつ見本として持ってきてもらっている。返品を条件とした上で、リストでなく現物を見て選んでいる。

委員：これは子どもの本だけでなく、全体でそういう方法をとっているのか。

事務局：基本的にはそうだが、現在年間8万点近くが出版されているため、中身を読んで選書できるのは児童書になる。一般書は大量のため、購入することが多い新書・小説類は「見計らい選書」をすることによって早めに入手している。

委員：本を買うときにリクエストはどの程度反映されるのか。

事務局：リクエストが出された本は、市内で所蔵していなければ選定会議に持ち寄る。すでに出版されている本であれば、大抵見計らいできているので、レビューを見て購入するかどうか決める。レビューでの評価により、都立・他市図書館から借用するものもあるが、それ以外の新刊書は購入するようにしている。

委員：それはリクエストのあった図書館で購入するのか。

事務局：基本的にはリクエストのあった図書館で購入するが、その本の関連本を多く所蔵している図書館で所蔵した方が利用されると判断すれば、リクエストのあった図書館以外で購入する。

委員：いろいろな事業をたくさん実施しているが、その中でおはなし会が一番児童に大きな影響を与えると思う。おはなし会をどう充実させていくかが重要な問題になるのではないか。ボランティアと職員の連携で、モデルになるおはなし会をつくってはどうか。公民館も一緒になって市民グループ・図書館・学校との連携をしていければいいと思う。

会長：もとまち図書館ではどうか。

事務局：第1小学校の3、4年生の先生と相談し、もとまちの児童担当の職員がブックトークを支援している。

委員：学級文庫の貸出は、一年生用のセットがあるが、他学年についてはどうか。以前はお母さんたちが借りに来ていたが、今も同じ方法か。その場合、職員のアドバイスがあるのか。

事務局：お母さん方も図書館を利用されている方が多く、本を選ぶことが以前よりもスムーズになっている。相談があればできる範囲でお答えしている。

委員：折角借りても、子どもの側から見ると「余り…」という本があった。ブックリスト等をつくり置いておくのもいいのではないかと思います。

事務局：初めてお子さんを持った方や、普段図書館を利用していない方が役員になって来館した時に、どうしていいかわからないという場合もあるが、以前よりは少なくなりスムーズに本を選んでいる。子どもたちに人気のある本は、学校でも図書館でも同じ。予算が決まっており、団体貸出用の本があるわけではないので、子どもたちにとって100%満足いく本の構成になっていないかもしれない。

委員：親が読ませたい本と子どもが読みたい本とは違うのかもしれない。

事務局：少し難しいかなという本を選んでいくことも確かにある。団体貸出用の本がもう少しあるといいと思う。

委員：「推進計画」との関連で、図書館が支援をしながら、学校図書室のデータベース化を進め、相互に利用しあうことが求められる。日野市では、図書館の資料を配送してほしいという希望があり、今年度からスタートし学校にも配送するようになった。そういったことも今後視野に入れる必要があると思う。

館長：国分寺市においても、今年度学校図書館のデータベース化とシステム化の予算が組まれている。担当は指導室で、小中学校全校のデータベース化を一気に行うということで打ち合わせをしている。図書館はノウハウを持っているので、提供したいと思っている。今後システムの検討になる時に、先ほどの搬送の問題とか新規に本を購入する時どういうルートで買えばいいか等が大きな課題になってくると思う。

会長：障害者、高齢者の分野でご意見をお願いしたい。

委員：図書館に対する考え方としては、一つは、国分寺跡という歴史的な文化遺産を持っているまちであること。二つ目は、図書館は書籍・情報を中心とした人と人とのネットワークがセットになって、本来の図書館の付加価値が生まれるということ。三つ目は、ハードとソフトの面から、バリアフリーあるいはユニバーサルを目指すということ。国障連からの希望は、1点は、障害者センターの中に、「サテライト図書コーナー」を設けてほしい。各図書館にコーナーを設けてもなかなか利用しにくい。書籍あるいは情報と、それを利用する人と人とのネットワークがワンセットであると考え、障害者センターに置くのがベストだと思う。2点目は、障害者の雇用を考えてほしい。障害者のアンケート統計調査の報告書が市からでていますが、回答者のうち身障者1,727名、知的障害者271名、精神障害者268名、難病の会が616名で、合計で2,882名になる。障害者は全国平均で人口の5%といわれるが、市の人口12万人とすると約6千人になる。昨年度の実績の中に障害者サービスがあり努力されていると評価したい。今後も少しずつでも充実させる方向で努力してほしい。難病者の場合は病状が変化するが、その他の3障害は症状が割と安定している。また、難病者は自分の病気にたどり着くまで2、3年かかる人もいる。そういう意味で病気に関する情報・先端的な情報が必要だが、これに関するサービスの提供は困難を伴う。闘病体験が随分役立つのではないと思う。障害者

が自立する方法や未来という視点から考えると、雇用・就業問題が一番の難関だし、結婚・老後の問題等ときりが無い。自立支援という点から、市の障害者向けサービスの情報を身近なところで利用できること、国内各地で提供している情報・行政サービスの事例、民間がNPO等の企画へ支援金を出しているリスト等の情報、あるいは、すでに自立しているという事例集等が不足していると思う。

会長：情報提供の考えをまとめて図書館へ提供していただき、また後で議論をしていきたいと思う。

委員：障害者サービスの対面朗読の実績だが、全て要望に応えられている状況か。

事務局：希望が出された時に時間割に入れ、本を用意しボランティアを確保している。資料4-2の対面朗読時間の数字は、昨年度の利用実績数になる。3館に対面朗読専用室があるので、実際は多少余裕がある状況である。

委員：市庁舎がバリアフリーではない。図書館の障害者トイレでは、光図書館以外は段差がある。スペース的にもトイレの中で車イスを十分操作できないようである。

館長：壁を壊して広げることは無理だが、段差の問題は解消するよう対応していきたい。

事務局：「図書館利用者懇談会」「平成18年度図書館事業利用実績報告」「平成19年度図書館事業計画」について資料に沿って説明。

副会長：もとまち図書館の利用者懇談会に参加した。参加者から、協議会委員は市民が利用者懇談会に参加するようにどれだけ働きかけたのかという指摘があった。利用者懇談会の日程がもう少し早くわかり、委員が把握していることが必要だと思う。

会長：参加人数があまりにも少ないということと、必ず協議会の前に開かなければいけないのかどうかということがある。

館長：そのことについて委員の意見を伺いたい。今までのように協議会の前に必ず利用者懇談会を開催するとなると、どうしても協議会の日程に合わさなければならず、周知期間が非常に短くなる。5回予定している協議会の前に、毎回利用者懇談会を開催しなければいけないのかどうか、委員のご意見を伺いたい。

委員：二年目で徐々に浸透していきだろから、辛抱強く訴えることが必要だと思うが、5回開催しなくてもいいのではないか。せめて学期に1回くらいでいいと思う。以前、利用者懇談会の開催日程を決めた時点で、協議会委員の通知に入れてほしいと話をしたが、利用者懇談会の開催を委員が知らないことのないようにすれば、知人・友人へお誘いできる。また、周知用のチラシは1館のみ大きく書いたチラシだけでなく、5館とも大きく書いたチラシが必要。今回、恋ヶ窪図書館利用者懇談会を知人・友人にお知らせしたら、開催を知らない様子だった。特に小学生を育てている30代の若いお母さん方に上手に訴えかけていないようだ。泉町に住んでいる方は、恋ヶ窪だけでなくもとまちや本多も利用しているので、いろいろな形でアプローチがあってもいいのではないか。いずみホールでの利用者懇談会では、図書館がほし

いという要望ばかりがたくさん出て、恋ヶ窪についての意見が少なかった。

会長：周知・PRの仕方を工夫していただかないと、なかなか浸透しないのではないかと。

委員：3回ほど連続で参加したが、いつも同じことばかり言ってもしかたないので、今回は参加しなかった。2、3ヶ月ではアイデアが次々に出てくる訳ではないので、むしろ新しい人に参加して貰った方がいい。日頃カウンターで利用者と接している職員が、声かけをしてほしい。

副会長：協議会は年間5回開催されるので、各館1回ずつでいいと思う。

会長：事務局の方でも回数、PRの問題等考えていただきたい。

委員：所蔵冊数に関してだが、上限を決めているのか。

事務局：書架が限られており現在満杯の状況である。蔵書を増やしたいと考えているが、スペースがないため、新規に購入すればその分除籍しなければならない。図書館の課題として考えていく必要があると思っている。

委員：図書館費の総額と1～19の合計が違っているが、その差額はなにか。

事務局：人件費になる。

委員：図書館は人件費がかなり占めている。13の新刊図書マーク費というのはなにか。

事務局：国分寺市は、図書データとして大阪屋が作成している「大阪屋マーク」を出版点数分購入しているが、それを委託料として計上している。週2回メールで受け取り、図書館のサーバに蓄積している。

館長：完成されたマークを買うのではなく、素材としてあればいいという考えである。必要なデータについては、職員が付加して十分なマークにして対応している。素材であればできるだけ安いものをと考えた。

委員：図書費の2900万円は購入冊数からみて少ないと思う。

館長：本の単価も低いが、図書費を効率的に使用しようと考えている。

委員：システムを検討するということだが、1年で可能か。

館長：5年リースで運用しているが、その間もシステムのバージョンアップはしている。前回のシステム更新で2年近くかけて検討したものが、改善したいところをまとめていく過程で生かせる内容が残っており、今回は短時間でできると思う。

会長：次に「推進計画」について説明をお願いします。

館長：今までも協議会で「推進計画」について話され、図書館でも昨年から検討してきたが、具体的なかたちでは進んでいない。今年度「推進計画」をつくりあげ、その計画に沿って実施していきたい。すでに児童担当者にはとりまとめを指示しているが、短期間で策定しなければならないので、文庫活動等されている市民の意見を十分取り込みたいと考えている。また、この協議会の中でも議論をお願いし、「推進計画」の中に多くの意見・アイデアを盛り込んでいきたい。ただ、協議会でも議論していただかなければならないテーマがたくさんあるので、全ての時間を「推進計画」に

割く訳にはいかないが、できるだけご意見をいただきたい。

会長：今年度中に策定ということで、定例の協議会の中でも話し合いの時間を設けたいが、定例会以外に「懇談会」を設けるのも一つのアイデアだと思う。大きな素案から詳しいものまで、それぞれの段階で出てくるだろうが、そういうものを俎上に乗せながら検討ということになる。議論の仕方の問題で要望があれば出していただきたい。

委員：この協議会で話すだけでなく、事務局から文書ももらい、協議会からも事務局へ文書で出せたらと思う。本来の議題自体でも時間が足りないので、文書でやり取りする方法を「推進計画」以外でもしていただきたい。定例会以外の懇談会にも参加したいので、そういう機会をつくっていただきたい。

副会長：素案ができてしまうと、それに対しての意見を聞きにくいので、粗々の素案段階で意見を出せるような懇談会であれば参加したい。

委員：委員が顔を合わせて他市の計画を読み合ったり、情報や意見を交換しあったりしながら、総合的に国分寺市の「推進計画」の素案を検討するような懇談会を開いていただきたい。協議会としての意見を持てたらいいと思う。

館長：いろいろご意見をありがとうございます。図書館だけで「推進計画」をつくるものではないと思っている。また「推進計画」がないと出来ないということではなく、策定の途上であってもいいアイデアがあれば実施に移していきたいと考えている。案がある程度固まってしまうとなかなか手が付けられないので、粗々の段階で皆さんのご意見をいただきながらつくっていききたい。現在、資料の収集等を行い、各市の「推進計画」はほぼ揃えてあるので、要望があればすぐに提供する。

委員：国分寺市役所の耐震調査の結果について報道されていたが、どうなっているのか。

事務局：耐震調査の結果、老朽化しており相当な補強が必要と診断された。現庁舎の耐震補強をすることは、金額がかかることや事務スペースが制約される等厳しい状況でできない。駐車場スペースに、3階建てのプレハブを建てて市民のみなさんが来庁される部署を移すことを考えている。市役所内部に本部を設け検討を進めていくことになる。

会長：次回以降、地区館を回りながら、協議会を開催していくのがいいのではないだろうか。

次回は7月19日（木）の午前10時から、閉架書庫のある光図書館でどうか。

事務局：会場は光図書館を第一候補とし、会場の確保ができなければ他の館にさせていただきたい。決まり次第連絡をする。「推進計画」に関わる懇談会はなるべく早めに開催したいので、6月5日（火）午後2時から本多公民館会議室で行うこととする。要点記録については、特に何もなければ確定ということにさせていただきたい。

館長：次回は、協議会の前に利用者懇談会を開催しないということで進めさせていただく。協議会の要点記録を図書館のホームページで公開することでよろしいか。（異議なし）利用者懇談会で出していただいた意見にも答えていきたいと考えている。

会長：本日はここまでとし、終わりにする。